

研究タイトル：

## 積極的誤読／能動的誤読



氏名：	小田 昇平 / ODA Shohei	E-mail：	soda@numazu-ct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士(藝術)
所属学会・協会：	美学会、文藝学研究会、観光学術学会、 全国高等専門学校英語教育学会(団体会員)		
キーワード：	美学藝術学、観光社会学、精神分析、映画、ファッション、デザイン		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美学藝術学に関する研究</li> <li>・ 観光学とくに観光社会学に関する研究</li> <li>・ とくにヨーロッパ諸言語</li> </ul>		

### 研究内容：

18世紀フランスの哲学者、コンディヤックの思想研究からキャリアをスタート、ジャック・デリダのコンディヤック論をきっかけに、現在は現代思想を中心に研究しています。現在の研究対象・興味関心は、積極的能動的な「誤読」です。ジャック・ラカン、ロラン・バルト、ゲオルグ・ジンメル、シチュアシオニストとりわけギー・ドゥポールやハキム・ベイことピーター・ランボーン・ウィルソンの思想や藝術作品、そしてデザインや民藝の理論から、セルジュ・ゲンスブール監督映画作品について、沼津の観光事例について、Maison Martin Margiela や Supreme からファッションについて、それぞれ研究してきました。雑多に見えるわたくしの研究は、「積極的誤読／能動的誤読」と呼びうるメカニズムがその中心軸として屹立しています。

#### 思想研究

18世紀フランスを代表する思想家、コンディヤックの思想を改めて読み直しました。同じくフランスの現代思想を代表するジャック・デリダの思想を手がかりとして、コンディヤックが展開する論理 *logique* が、じつはいわゆる論理とはかけ離れた論理である類比 *analogique* であることを示しました。

#### 映画作品研究

1976年に封切りとなった映画作品としての『ジュ・テーム・モワ・ノン・プリユ *Je t'aime moi non plus*』は、セルジュ・ゲンスブールが監督をつとめた初の長編映画です。本作品を上倉庸敬が提示する概念である「シーン」ごとに分析し、精神分析をはじめとする理論装置を援用、スキャンダラスなモチーフに満ちた本作品の読解をはかりました。「シーン」概念や諸藝術との関係も考察対象です。

#### 観光社会学研究

観光においてわたくしたちは、風光明媚な地で地元老舗の名物料理に舌鼓、その地の歴史やその地を舞台とした作品に想いをさせます。みるべきモノをみて、食べるべきモノを食べ、知っておくべきコトを知る、経験すべきモノゴトの To Do リストは、観光客に期待させ、観光客の欲望をうみだします。その土地をすっかり読みかえてしまう観光は、どのようにして成立するか。この問題について、難解な現代思想と沼津における事例とを照らし合わせて、具体的に示しました。

#### ファッション研究

ゲオルグ・ジンメルはアクセサリやモードについて思索を残しています。くわえてジャック・ラカンの精神分析理論と、ロラン・バルトの主としてファッションに関連する言説とを参照し、転移をうみだす機能をもつアクセサリ、そして転移をもたらすモードという視座をひらきました。また、スケートボーディングのファッションがもつ批判的強度について、スケートボーディングそれ自体の実践とリンクさせ、その所以をさぐりました。

### 提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)